

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)

1 特 徴

スクミリンゴガイ(以後貝)は温暖な気候を好み、土中や用水路等の暖かい場所で越冬する。

水温が上がる田植時期に活性化し、雌貝は3~4日ごとに200~300個の卵(写真1)を産卵する。

卵は10日程度で孵化し、約2ヶ月で成熟する(写真2)。



写真1



写真2

2 対 策

拡大すると根絶はほぼ不可能なため、初期の対応が重要である。

(1) 用水路や取水口に侵入を防ぐネット等を張り、ほ場への侵入を防ぐ。

(2) 貝がほ場に侵入してしまったら、貝は水中でしか根を食べることができないので、田植後なるべく浅水に管理する。

(3) 卵を発見したら、水中に落として死滅させる(写真3)。

ただし、卵は毒性があるので、素手では触らない。

(4) 農薬散布を行う。(※水路には散布しない)

(5) 貝は比較的浅いところに潜って越冬するので、

冬場にトラクタで耕耘して貝の個体数を減らす。



写真3